

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年5月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4692600010
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム「このゆびと一まれ」
所在地	鹿児島県 南九州市知覧町永里4577-2 電話 0993-83-1015
自己評価作成日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

明るく家庭的なグループホームである。
利用者様の間でのコミュニケーションが活発で、賑やかなおしゃべりや歌がいつも聞かれる。徘徊など行動障害を持つ人を優しく受け入れる雰囲気がある。
スタッフの異動が少なく、スタッフ間のコミュニケーションがよくとれている。そのため新規の利用者様への支援や、状態が変わった方への対応がスムーズにとれる。
ご家族との関係を重視しており、家族とスタッフが細やかにコミュニケーションをとることで、利用者様を共に支える関係を構築している。

○ホームは、市役所知覧支所から約2キロほど離れた閑静な地に同法人が運営する特別養護老人ホームやデイサービスセンター等、高齢者福祉施設と同じ敷地に建てられている。運営も一体的になされており、夏祭りや避難訓練など法人全体で取り組んでいる。
○ホームの理念は、開設当時の理念を昨年見直して、職員全員で話し合っ日々ケアに即した新しい理念を作り、以後、研修等で認識を深め、実践に努めている。また、運営推進会議の委員や家族にも機会ある度に紹介して認識を共有している。
○管理者及び職員は、利用者や家族の意見や要望等を十分に把握して、利用者の尊厳と誇りを大切に利用者本位のケアに努めている。
○地域との交流については、施設で実施する敬老会や夏祭り等で地域の人や家族との交流を図ると共に地域の行事(二日市、からくり人形、文化祭等の見物)に可能な限り参加している。また、学童保育児との定期的な交流、有償ボランティアの活用、学生の職場体験や実習、地域住民の施設見学、家族や友人知人の面会等を積極的に受け入れており、利用者はこれらの人々との交流を楽しみにしている。
○管理者は日頃より、話しやすい環境づくりに配慮しており、職員の意見や提案を申し送りやミーティング、日常の業務の中で積極的に聞き取り、職員全員で話し合っホームの運営やサービスの向上に努めている。また、職員間の信頼関係も構築されており、ケアに関する意見等が活発に出されるなど、改善に向けて意欲的に運営されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に作られた理念がマンネリ化して意識されにくくなったため、話し合っって新しい理念を作った。現在この理念がよく認識されている。	利用者が住み慣れた地域で、家族や友人と関わりながら常に笑顔で平穏な生活ができることを目指して、昨年、従来の理念を全職員で見直して新しい理念を作成している。理念は研修やミーティング等で共通認識を図り、ロビーや職員トイレの目線の位置に掲示して常に意義を振り返り、理念に添ったケアの実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	学童保育所との定期交流のほか、有償ボランティア、地域の訪問ボランティア等を積極的に受け入れている。	地域で開催の「二日市」「からくり人形」等の見物に加え初詣や花見、ミカン狩り等、外出を積極的に計画し実践している。町の文化祭には利用者の作品を展示してもらい一緒に見物に行くのを楽しみにしている。学童保育児との月1回の交流や有償ボランティア、中学生の職場体験、住民の施設見学等を積極的に受け入れて外部の人との交流を図っており、また、日常的に友人知人の来訪や農作物等の差し入れがある等、継続的な交流がなされている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	人材育成のため、実習生を積極的に受け入れている。運営推進会議において認知症の学習を行った。見学者や入居申込者に対して、認知症や支援について説明している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、グループホームの状況や評価についての説明を丁寧に行い、理解が得られている。	会議には家族代表、地域住民、民生委員や市担当者等が参加して年6回定期的に開催している。ホームの現況や行事、事故、問題点等の取り組みの状況や外部評価の報告等がなされると共に、委員からはケアに関する質問や地域の情報が出されるなど活発に意見交換が行われ、具体的に日々のサービス向上に役立てている。理念を書いた資料の配布や認知症に関する研修を実施して認識の共有を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市の担当者に窓口や電話でこまめに相談や報告を行っている。運営推進会議への出席が毎回得られている。</p>	<p>市担当者には運営推進会議に出席してもらうと共に、日頃から各種の手続きに関する事、ケアや運営上の相談を訪問や電話で行い、助言・指導して頂くなど密に連携を図っている。また、市担当者からも地域の高齢者の情報や対応に関する相談を受けるなど協力関係が築かれていて、これらを利用者のサービス向上に反映させている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に身体拘束に関する研修を行い、身体拘束に当たる行為について正しく理解するよう努めている。安全に配慮しながら、できるだけ自由に行動してもらうための開錠に努めている。</p>	<p>高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を、月2回開催のミーティング時に実施して理解を深めるとともに、日々のケアの中で身体や言葉による拘束の無いように職員相互で喚起しあって支援の質の向上に努めている。外出したがる利用者には、センサーの活用やドライブ、散歩するなど工夫して安定を図っており、利用者の気持ちを大切にした暮らしの支援に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に、高齢者虐待防止法に関する研修を行い、日常の何気ない介護が虐待につながることはないよう検証に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>定期的に権利擁護に関する研修を行い、理解に努めている。現在、日常生活自立支援事業を活用中である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は事前に十分な説明を行い、納得の上で締結している。解約等の際も、支援を継続することを伝えて不安の解消をはかっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月の利用料の支払いを持参払いとし、その機会に家族と情報交換、要望の聞き取りを行っている。運営推進会議、敬老会、誕生会など、家族がホームを訪れる機会を多く設け、職員との交流の機械を確保している。	利用者の思いや意見は声かけや所作の見守り等で把握に努めるとともに、家族とは主に来訪時の対話や誕生会・敬老会の際に、話しやすい雰囲気作りに努めて意見を頂くようにしている。意見等はケース記録に記載すると共に、申し送りやミーティングで内容を共有して十分に話し合いして対処している。結果は速やかに本人や家族にも報告してケアへの反映に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回ミーティングを行い、職員の意見を業務に反映させている。	管理者は日々のケアの中や申し送り、毎月のミーティング等で意見や提案等を聞き取り、また、必要に応じて個別面談も行うなど、日常的に話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や提案等は、施設運営や利用者のサービスに具体的に反映させて改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は度々現場を訪れ、スタッフとのコミュニケーションを図っている。細部は現場に任せることで、スタッフはのびのびと働いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員がスキルアップに取り組める体制があり、代表者が支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の地域ネットワークや自主研修会を通じて地域的なつながりができつつある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始以前に本人と面会し、要望を聞き取り、顔見知りになるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所申込みから利用開始までの段階で、家族との面談を重ねて信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期の段階で本人、家族、居宅ケアマネ、医療施設等と連携し、情報を得て、初期に必要なサービスを見極めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者と職員がともに話したり歌ったり、助け合ったりして日常生活を楽しんでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がグループホームを訪問する機会をなるべく多く設け、本人と交流していただくとともにスタッフとの交流にも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の訪問を促し、訪問された際は居室でゆっくり交流できるように配慮している。馴染みの地域の利用日に合わせてデイサービスの利用を支援している。	利用前に本人や家族、ケアマネジャーから、馴染みの人や場を把握して「入居前聞き取りシート」に記載して情報の共有を図っている。利用者の家族や友人などの来訪時には、ゆったりと過ごせるように配慮するとともに、遠方の家族との電話の取り次ぎを行うなど関係が途切れないよう支援している。また、家族と協力して、本人が希望するデイサービスの参加や近隣のドライブ、床屋、買い物などを可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースである和室において、毎日賑やかな交流が得られている。孤立しがちな利用者にはスタッフが積極的にかかわっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者とも出来る限り交流を保つよう努めている。これまでも居宅や病院のSWと連携して退所後の相談に応じてきた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	バイタルチェックや入浴時、日頃の会話等から本人の気持ちをくみ取るよう努めている。家族や居宅ケアマネからも、可能な限り聞き取りを行っている。	利用開始時の本人やご家族からの聞き取りや、日々のケアの中（特に入浴やバイタルチェック時の対話）で利用者の思いや希望をくみ取るように努めている。朝夕の申し送りや月2回開催のミーティングで情報の共有を図り、必要に応じてご家族とも相談しながら、その人らしい暮らしが送れるための取り組みを検討し、可能な限り本人の希望に添うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前から開始後も継続して本人や家族、ケアマネからの情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	シフト勤務の中で引き継、記録、申し送り等を利用して継続的な現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族からニーズを抽出したうえ、居宅ケアマネの情報、主治医の意見を踏まえてケアプランを作成、家族や職員に説明している。職員全員でモニタリングを行う。	介護計画は、利用者及びご家族の思いや意見を聞き取り、また、主治医や職員の意見を基に十分検討して、現状に即した利用者本位のものを作成している。3か月に1回、全員でモニタリングして介護計画を作成し、利用者及び家族の了解を得て日々支援しており、その経過は「ケース記録」に丁寧に記録されている。緊急な変動等に対しても随時、計画の見直しや修正が適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日勤者と夜勤者が交代で個別記録を作成し、全員が目を通して情報を共有して、ミーティングで確認や変更を話し合っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>個々のニーズに応じて受診同行や買い物代行、趣味の支援などを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>日常生活支援事業や有償ボランティアなど、必要に応じて地域資源を利用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>原則として入所前から利用していたかかりつけ医を利用できるよう支援しているが、本人や家族の状況に応じて変更なども柔軟に支援している。</p>	<p>利用前の病歴や受診経過は十分に把握し、本人・家族が希望する医療機関で受診できるように支援している。通院は家族の同行で実施されており、主治医には施設での状況を報告する等、情報交換に努めている。往診については利用者及び家族と十分に連携を図って実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと、1月2回の訪問を契約しており、継続的にアドバイスが受けられる体制がある。日常的に特養の看護師にアドバイスを求めることができる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後10日程度をめどに、主治医やSW、ご家族と容態確認や退院に向けての協議を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>職員は定期的に研修を行っている。GHとして重度化、看取りに関する指針を作成し、入所時に大体の説明を行なっている。入所中にその状態に近づいたかたに関しては、ご家族に説明を行っている。</p>	<p>「看取りに関する指針」「利用者の重度化対応及び看取りに関する指針」を定めており、利用者が重度化した時点で家族に説明して対応している。これまで看取りの事例は無いが、今後「24時間看護体制」や「緊急時の往診体制」等が整備されれば、重度化のケアや看取りの対応も今以上に可能になると検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアルを作成して、定期的に研修や訓練を行い、活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の法人合同避難訓練のほか、GH独自の訓練をシミュレーションを含めて2回行っている。法人として地域の消防団等との連携体制がある。</p>	<p>消防署や地域の消防団・同法人の関連施設の職員等も参加して、夜間を含めた避難訓練を年2回行うとともに、ホーム独自の避難訓練を2回実施している。全ての居室から避難経路であるウッドデッキに出られるようになっており避難のシミュレーションも実施している。防火器具の点検や取扱いの研修も実施され、食料や飲料水の備蓄及び懐中電灯、ラジオ等も整備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護やプライバシー保護の研修を定期的に行い、個人の尊厳を損なわない対応に努めている。	マニュアルを整備しており接遇や個人情報保護等の研修で充実を図ると共に、日々のケアの中で利用者の尊厳やプライドを損ねるような声かけや言葉遣い・対応の防止に努めている。個人記録の管理や居室、トイレの保護にも十分に配慮がなされ、利用者の人格や感性を大切にされた対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を表出しやすい環境が保たれている。意思表示の能力が不足する利用者に対しては、気持ちをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間等大雑把に決めてはあるが、それ以外は自分のペースで好きなことが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪や更衣においてその人の希望に沿って支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全や衛生に配慮しつつ、できる限り利用者に参加してもらえよう努めている。また、献立に個々の好みを反映させている。	利用者の嗜好、食事形態、疾病や服用中の薬との影響等を十分に把握しており、栄養バランスを考慮して、差し入れの野菜も活用しながら食事づくりに努めている。季節感のある食材や行事食、外食、弁当持参の外出、園庭でのお茶等、食事を楽しめるように工夫している。食材の下ごしらえや下膳等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取について個別に記録し、定期的な体重測定や管理栄養士のアドバイスにより、適切な食事摂取ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に応じた口腔ケアの援助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ周辺の環境を整備し、個々の状態に応じた最低限の手助けを行うことにより、出来る限り排泄の自立支援に努めている。	利用者個々の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように排泄のパターンを把握し、不安や羞恥心にも十分配慮しながら可能な限りトイレで排泄できるように支援している。尿意の無い重度の利用者には、適切な支援になるように十分に話し合いや、工夫を繰り返して対応しており、これらはケアプランにも組み込んで実践に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を個々に記録し、朝夕の引き継を行うことにより、便秘の状態を把握し、栄養士や医療機関との連携により便秘を防いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に1日おき入浴の体制をとっている。入浴の順番、湯温、シャンプー等、個々の希望に沿って対応している。夏は希望に応じてシャワー浴を行っている。	バイタルや皮膚の状況の確認とともに、安全に十分配慮して基本的には2日に1回の入浴を支援している。入浴を拒否される利用者には、無理強いしないで、時間帯、順番、声かけ等を工夫してスムーズに入浴できる環境づくりに努めている。また、石鹸やシャンプー等は可能な限り好みの物で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に夜間は眠り、日中は起床する生活を支援している。起床や就寝の時間、昼寝等については個々の希望に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてスタッフがいつでも確認できるよう、説明書をケース記録にはさんである。薬の変更等は必ず申し送りに記入し、全員が理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族の情報をもとに、個々に合わせた役割や楽しみごとを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	墓参りや帰宅など、家族の援助をもらって個々の希望に沿うよう努めている。ほぼ毎月、地域行事や季節に合わせた外出を行っている。	利用者の健康状態や天候を考慮しながら、近隣の散歩やドライブ、ウッドデッキでの日光浴、園庭での散策等を日常的に楽しんで頂いている。また利用者の希望も確認しながら、地域の行事（二日市、からくり人形、文化祭等）にも出かけて交流するなど、外出が楽しみなものになるように工夫している。通院、墓参り、冠婚葬祭への参加、美容室等の外出は、主に家族が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で財布を持つことを希望する利用者には、家族の承認のもと自己責任で管理していただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望によって、いつでも外部に電話できるよう支援している。そのことについて家族の了承をもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然の光を取り入れた広い空間を確保している。共有の部屋には季節感を取り入れた飾りつけや、懐かしい家具を配置してして居心地の良い空間を作っている。</p>	<p>建物の内外は全て木造で落ち着いた雰囲気漂い、リビングや廊下等は広くて明るく、ウッドデッキや畳の部屋も設置されていて、好みの場所で気持ち良くくつろげる環境である。壁には利用者が作成した季節感のある貼り絵や外出時のスナップ写真、花などが飾られている。空調等にも細かく配慮がなされ、利用者にとって不快に感じる音や匂いもなく居心地の良い環境になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室には電気治療器をおき、台所やベランダには椅子を準備して、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの品物を持ち込んでもらうよう、入居の際に説明している。本人や家族の希望に沿って、めいめい居心地良く居室を利用されている。</p>	<p>居室はホームが備えたエアコン、ベッドに加え、利用者がそれまでの暮らしの中で使い慣れた家具や身の回りの物、家族写真やぬいぐるみ等を自由に持ち込んで頂き、その人らしく落ち着いて居心地良く過ごせる居室となるように、家族とも話し合っって柔軟に支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室のベッドや手すりは、本人の状態に応じて安全や自立支援に配慮したものになっている。廊下やトイレの手すりや窓の工夫など、最低限の援助で生活ができるよう努めている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない